

TK-1660A/AVとTK-1770との違い説明書

■1 概要

- ◇できるだけ互換性を維持するように努めていますが、機能の追加に伴い、若干の変更箇所があります。
- ◇コマンドやデフォルト値は全て同じで、主にマイクロSD関係のコマンドを追加しています。

■2 変更箇所

- ◇電源電圧範囲を、TK-1660A/AVのDC5~24Vから、DC5~15Vに変更しています。
- ◇TK-1660A/AVのCN12を、マイクロUSBとマイクロSDカードインターフェースに変更しています。
オプションのリレーユニット (TK-9610BSI) やBluetoothユニット (BT-5200D) は使用できなくなります。
- ◇TK-1660AVのみの音声録音・再生機能を、標準機能にしています。
- ◇電話回線から受話出力と、送話入力から電話回線への信号遅延時間を短縮しています。
- ◇S/Nを改善しています。
- ◇エコーキャンセラの性能 (減衰時間と量) を改善しています。
- ◇ラインエコーキャンセラの処理時間を、16msから64ms (音響エコーキャンセルと同じ) に拡張しています。
- ◇音響エコーキャンセラのハウリング防止10dB固定アッテネータを止め、ライン・音響共通可変アッテネータに変更しています。
- ◇使用環境変化がない場合に、エコーキャンセラの初期値をエコーが収束した状態にすることができます。
- ◇TK-1660A/AVの制御入出力 (CN3) の8チャンネルアナログ入力を、4チャンネルに変更しています。
- ◇ラインの絶縁を、デジタルからアナログトランスに変更し、雑音 (EMI) を低減しています。
回線モニター機能は使用できなくなります。
無電圧回線への信号入出力が可能です。
- ◇通話録音が可能です。(デフォルトは相手先の音声を録音します。)
- ◇ノイズゲート機能により、ホワイトノイズをミュート可能です。
(TK-1660A/AVは、Ver1.81以降対応。従来はAGC (自動ゲイン制御) を有効にする必要がありました。)
- ◇内線呼出信号 (SIR) に対応しています。(TK-1660A/AVは、Ver1.81以降対応)
- ◇ナンバーディスプレイの呼出信号 (1秒周期のリング) を、併設電話機に伝達しないようにできます。
- ◇未登録の発信電話番号受信の呼び出し (リング) を拒否するようにできます。

■3 追加コマンド

フラッシュメモリー設定

用途	ATコマンド	DTMFコマンド	デフォルト
発信電話番号受信結果の登録件数を指定	ATS48=b b b	#0048 b b b *	0
発信電話番号受信結果の登録方法を指定	ATS49=b b b	#0049 b b b *	0
識別自動着信の制御方法を指定	AT!C3	#573 *	0
〃	AT!C4	#574 *	0
エコーアッテネータを指定	AT!VA t	#22 t *	0
SDカードのマウント (ディスクの挿入) を指定	AT#SDM s		1
併設電話機のナンバーディスプレイ対応を指定	AT#TN s	#24 s *	0
音声録音に通話 (ライン入力+ライン出力) を指定	AT#VRL s	#23 s *	0
音声録音・再生にSDカードを指定	AT#VSD s		0
無電圧回線への接続を指定	AT*H s	#21 s *	0
指定番号と一致する電話番号メモリーの消去	AT*Z n n . . . n	99 c c n n . . . n	

制御コマンド

用途	ATコマンド	DTMFコマンド
ルートディレクトリのファイル一覧の参照	ATI22	
カレントシリアルインターフェース名の参照	ATI23	
最後に受信した発信電話番号の参照	ATI24	
ファームウェアの更新	ATUnn・・・n	
ファイルから設定の読み出し ※起動時に「ATZ=CONFIG0.HEX」を自動実行	ATZ=ファイル名	
エコーキャンセラの初期値を初期化	AT!VEct	
エコーキャンセラの初期値を読み込み ※起動時に「AT!VEL=COEFF0.HEX」を自動実行	AT!VEL=ファイル名	
エコーキャンセラの初期値を保存	AT!VES t/=ファイル名	
ファイルへ設定の保存	AT&W=ファイル名	

音声録音・再生制御コマンド

用途	ATコマンド	DTMFコマンド
音声ファイルの削除	AT#SDC=ファイル名	
音声ファイルを再生	AT#SDP=ファイル名	
音声をファイルへ録音	AT#SDR=ファイル名	
音声ファイルを音声メモリー番号に読み込み	AT#SDLuu=ファイル名	
音声メモリー番号からファイルへ保存	AT#SDSuu=ファイル名	

■4 マイクロUSBインターフェースについて

TK-1660A/AVのオプション (UT-5200D) とは以下の違いがあります。

- ◇ミニUSBソケットからマイクロUSBソケットに変更しています。
- ◇ポート (CDC) は、USB-シリアル変換を行っていないため高速ですが、本装置の電源入り切りや再起動で、PCのドライバーが一時的に無効になるため、通信ポートを開き直す必要があります。
- ◇ポート (CDC) は、ハードウェアフロー制御をDTR/DSRにする必要があります。
- ◇マイクロSDカードの使用で、USBディスク (MSC) として読み書きできます。

※上記に問題がある場合は、オプション (RS-232C9PD) とUSB-シリアル変換アダプターを使用して下さい。

■5 マイクロSDカードインターフェースについて

マイクロSDカードの使用で、以下のことが可能になります。

- ◇「AT#VSD1」コマンド設定で、長時間の音声録音・再生が可能になります。
 - ◇「AT&W=CONFIG0」コマンドで設定を保存すると、保存した内容で起動するようになります。
 - ◇OSがWindowsであれば、弊社設定ソフトで「CONFIG0.HEX」を作成できます。
 - ◇マイクロUSBインターフェース経由で、FAT32フォーマットに対応したPCから、コピーや貼り付けが可能です。
- ※上記により、万一、本装置が故障した場合、本装置を交換するだけで元の状態に戻すことができます。

■6 ノイズゲートについて

アンプによる拡声やヘッドセットの使用時、「AT#VLC2」コマンド設定でホワイトノイズをミュートできます。

「AT#VLD1=xx」(xx:ゲート閾値)コマンド設定で、ミュートする信号レベルを指定できます。

■7 追加動作状態確認

動作状態確認に、着信時通話可能状態 (選択番号115) を追加しました。(TK-1660A/AVは、Ver1.82以降対応)

■8 追加制御動作

制御設定動作に「音声録音」を追加しました。(TK-1660AVは、Ver1.82以降対応)

例1) 着信や併設電話機のオフフックで音声録音を開始し、任意または特定のDTMF信号検知で音声録音を終了し、グループ通報を行なえます。

発信電話番号受信結果 (ナンバーディスプレイ) の登録を使用すれば、本装置に対し、発着信通話試験を行えます。

例2) 特定のDTMF信号検知で音声録音を開始し、特定のDTMF信号検知で音声録音を終了後、グループ通報を行なえます。

PATOK

松本無線パーツ株式会社岩国

〒740-0018

山口県岩国市麻里布町4-14-24

TEL(0827)24-0081(代)

FAX(0827)24-1444